

研究・調査報告書

報告書番号	担当
371	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Alcohol consumption and digestive cancer mortality in Koreans: the Kangwha Cohort Study. 韓国における飲酒量と消化器癌の死亡率について Kangwha コホート研究より	
執筆者	
Yi SW, Sull JW, Linton JA, Nam CM, Ohrr H..	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Epidemiol. 2010;20(3):204-11. Epub 2010 Mar 16.	
キーワード	
飲酒者、消化器癌、コホートスタディ、死亡率	
<p>要 旨</p> <p>背景： 飲酒量は口腔癌、乳ガン、大腸癌、肝臓がん、食道癌のリスクファクターとして知られている。この研究では韓国の男女における飲酒と消化器系のがんについての関連について調べる。</p> <p>方法： Kangwha の 6291 群に居住する 55 歳、もしくはそれ以上の住民を 1985 年 3 月から 2005 年 12 月 31 日までの 20.8 年追跡した。我々は、飲酒量によるがんの死亡率についてまとめた。年齢、喫煙、高麗人参の摂取、教育歴、使用農薬などを Cox の比例ハザードモデルで調整した。</p> <p>結果： 男性において食道癌（相対リスク：5.62、95%信頼区間：1.45-21.77）と大腸癌（相対リスク：4.59、95%信頼区間：1.10-19.2）の死亡リスクは過度の飲酒者において全く飲酒をしない者と比較し、高い結果となった。大腸がんと胆管がんの死亡リスクは、飲酒量と比例した。これらの傾向は統計的にも有意であった（それぞれの p 値 0.04、0.02）。研究対象者を飲酒のタイプ別で階層化すると、焼酎の飲酒者は食道癌と大腸癌の死亡リスクはマッコリの飲酒者よりも高い結果となった。女性では、消化器のがんでの死亡率は、飲酒をしない群と比較すると高かったものの、統計学的な有意差はなかった。</p> <p>結論： 飲酒は男性において食道癌と大腸癌の死亡リスクを増加させるということが分かった。</p>	